

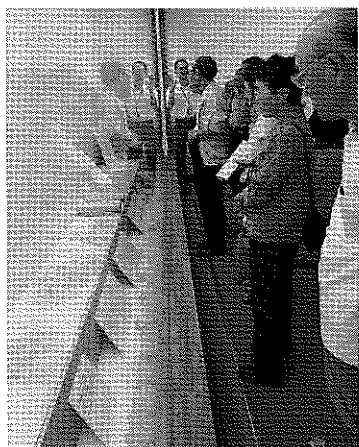
新潟県立歴史博物館移動展覧会

佐渡金銀山絵巻展

(平成19年8月21日～9月9日)

先人から受け継いだ貴重な文化遺産の収集と保存、公開を目的に平成12年長岡市内にオープンした県立歴史博物館。『県民の宝』ともいえるその収蔵品を市民のみなさんに直接見て、知っていただくため、県立歴史博物館との共催で「佐渡金銀山絵巻展」を開きました。

最盛期には、世界遺産の石見銀山をも上回る銀を産出し、徳川幕府の財政を支えていた佐渡金銀山。絵巻は、主に江戸から派遣された佐渡奉行の引き継ぎ用に使われたといわれています。このほかに、絵師の練習用やお土産用、鉱山研究用に模写されたものも展示。来館者は、目的や年代によって異なるタッチで描かれた絵巻に見入っていました。



展示説明会の様子(9/2)

解説 絵巻の特徴

佐渡金銀山絵巻は、八代將軍の徳川吉宗が治めた一七三〇年代から約130年間にわたり描かれました。

絵巻には、鉱山内の排水・照明設備や人夫の労働環境等の移り変わりが、絵図や説明文によって詳しく記されており、当時の様子をうかがい知ることができます。

現在、全国で100点前後の所在が確認されていますが、他の鉱山に比べて数種類も圧倒的に多く、世界的に見ても貴重な資料群といわれています。

良寛生誕250年ミニ企画展

第一弾 良寛遺墨展

(平成19年12月1日～2月24日)

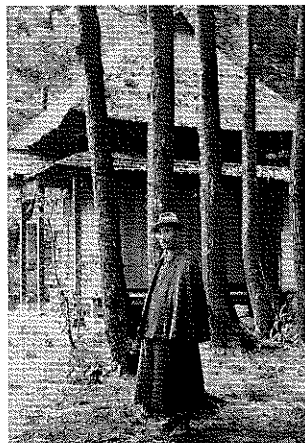
越後の名僧・良寛さまの生誕250年あたり、良寛研究の第一人者として活躍した相馬御風の功績を紹介するミニ企画展を開いています。

その第1弾として、御風が収集した良寛さまの漢詩や和歌、遺品など16点を紹介する「良寛遺墨展」を2月下旬まで開催しました。御風が「読めても、読めなくても(見ているだけで)その妙味に、おのずから心が和らげられ、浄(清)められる」と称賛した良寛の逸品を、大勢の方々から味わっていただきました。

解説 御風の良寛研究

江戸時代中期、越後出雲崎町の名家に生まれた良寛さま。若くして仏門に入り、人や自然を慈しみながら自分の信じる道をあゆみ続けました。また、詩歌や書に独自の境地を開き、数多くの名作を残しています。

そのまっすぐで、清らかな人柄に魅了された御風は、良寛研究に没頭し、『大愚良寛』や『良寛百考』などの研究書を出版します。さらに一般の人々や子ども向けに『良寛坊物語』や『良寛さま』といった書籍も執筆し、良寛さまの名を全国に広めました。



国上山五合庵にて(大正7年)

注目 「良寛周辺の人々」展開催中

現在開催中のミニ企画展第2弾「良寛周辺の人々」展では、良寛さまの血縁者や親交の厚かった人々にスポットをあて、書簡や作品を中心に24点の収蔵品を展示しています。

会期は5月18日までです。良寛さまの交流を今に伝える貴重な資料をこの機会にぜひご覧ください。

御風関連書籍等の目録

平成19年1月1日～12月31日

◇『御風と未明』(2月5日) 小川未明文
学館特別展展示記録

◇ワンコインブック『良寛さま』『続良寛さま』『良寛さま童謡集』相馬御風著・復刻版(4月25日) 高原美智子編
◇『こんにちは御風さん』(5月8日) 金子善八郎著

◇『洗心』(5月8日) 御風会会報(御風断片) 清田文武「バタバタ茶とバタバタ茶の会、そして御風」山本明美、
「御風歌碑(16)碓氷川・水源地の碑」藤巻道夫、「御風の書鑑定」高橋秀之、
「御風周辺の人々(10)鳥井儀資」金子善八郎、「相馬御風と郷土史(3)文芸」松野功、「御風と富山」校歌の作詞、
交流の人物等」(経子健治)

◇『新潟県文人研究 十号』(12月10日) 15
P「相馬御風宛書簡について」鳥井儀資 金子善八郎

◇『青春のうた』あの時わたしは若かった(9月29日) 窪田空穂記念館特別展図録、22P

◇早稲田大学創立100周年記念DVD『校歌百年』歌い継がれた都の西北の謎(10月) 早稲田大学校歌研究会編

◇『時代拓いて』(11月1日) 新潟日報社、240P「良寛を研究、校歌多彩」

◇『ふるさと上越ネットワーク会報』(12月号)、34P「相馬御風と早稲田大学」中村真和